

冬も緑のフェアウェイ —ロックヒルゴルフクラブで実現—

雪印種苗㈱東京支社 植生課長

松井秀夫

はじめに

ロックヒルゴルフクラブはコースの名が示す通り、「岩山」の上に造られたコースである。コース完成後もわざと残した岩があちこちに露出しているが、コース全体の景観の中で、岩はそれほど気にならず、かえってコースを美しくみせるポイントとなっている。当ゴルフクラブは36ホールで、18ホールがメンバーシップ、残り18ホールがパブリックである。両コースともグリーンはペンクロスベントの1グリーンであるが、一番大きな違いはフェアウェイの芝である。パブリックコースはコウライ芝だが、メンバーコースは洋芝である。関東の平地でフェアウェイに洋芝を使ったのは、このロックヒルゴルフクラブが初めてである。

今回のルポでは、洋芝のフェアウェイ造成と管理に焦点を絞って紹介する。

1 メンバーコースの芝草

グリーン…ペンクロス。フェアウェイ…トールフェクス、ケンタッキーブルーグラス、レッドフェクスの3種混播。ティグランド…コウライ芝。ラフ…野芝。エプロン及びグリーンカラー…コウライ芝（グリーンとフェアウェイの境目をはっきりさせるため）。

コースの造成は前述の通り、基盤がすべて岩なので、まずコース全体に客土をしなければならなかつた。第1回目の客土の厚さはフェアウェイを50cm、ラフを30cmとし、客土は外部から山土を運び込んだ。下が岩盤だけにターフが出来てから乾燥害の出る恐れがあるので、客土の厚さだけは入念にチェックした（安藤グリーンキーパー）。チエ

コース概要

所在地 茨城県那珂郡緒川村大字上小瀬
5374

開場 昭和63年7月27日

ホール数 36H

年間気温 最高平均18.7℃、最低8.4℃（昭和63年）

年間降雨量 1,550mm（昭和63年）

コース従業員 男41名、女2名（事務）

クの仕方は、各ホールのフェアウェイを細かく分割した図をノートに描き、一コマごとに上から棒を差し込んで厚さを測った。下が岩なので棒が岩盤に突き当たり、客土の深さがすぐ分かった。不足個所ごとにノートの図に色分けし、業者にノートを見せ追加客土を指示した。この基本客土の上に、更に砂を8cmの厚さで客土したが、肥料などは一切入れなかった。こうして播種床が出来上がった。

●播種作業・開場（昭和63年7月）2年前の昭和61年9月（4ホール）と翌62年4～5月（10ホール）に播種した。この時、ラフの芝張りは終っていたので、ラフに種子が入らないように播いた。ショートホールは播種しないので、播種をしたのは全部で14ホールである。

2 フェアウェイの草種と品種

ターフタイプトールフェスク（スノーTF）60%，ケンタッキーブルーグラス（スノーKB）20%，クリーピングレッドフェスク（ペンローン）20%の3種混播である。2,000lタンクに種子、ファイバー、

化成肥料、粘着剤を入れ、水でかき混ぜてからホースで吹き付けた。播種量は立方メートル当たり40gである。播種後の作業はかん水だけである。全自动スプリンクラーが既に完成していたので、毎日朝と夕方にかん水した。

発芽は順調で、9月13日播種したホールは10月1日に26インチグリーンモアで1回目の刈込みをするほどに生長した。そして、10月1日にはアプローチモアで刈込んだ。一部、雨で流された個所があり、そこは追い播きした。

3 洋芝ゆえに管理する苦労が多い

洋芝使用のため、まず心配するのが病害の発生で、特に夏の高温時の病害である。当ゴルフクラブではコースの造成に掛かる前から同地の気温を調査した。その結果、7月と8月の最高平均気温は、昭和59年が27.5°Cと31.1°C、60年が28.5°Cと31.1°Cというデータを得ていた。そして、これくらいの温度条件ならば管理次第で夏も病気を出さずに維持出来るとの自信は持っていた。

しかし、どの時期にどの程度の病害が発生するかを知るため、昭和62年の夏に、殺菌剤を一切使わないとわざと病気を出させた。すると、5月からプラウンパッチ、7月からピシウムライトが出た。オープン1年前だから、こういうテストが出来たのであるが、オープン後の現在ではフェアウェイ全体に薬剤を散布している。

薬剤散布の回数はコウライ芝のフェアウェイよりも多くしている。昨年は4月と5月に各1回、6月～8月に各2回、9月に1回散布した。

昭和63年の気温と雨量

月	最高平均°C	最低平均°C	雨量(mm)
1月	11.5	-1.4	28.6
2	9.3	-2.4	2.8
3	13.4	1.8	137.4
4	18.7	6.1	119.7
5	22.3	10.7	148.5
6	23.8	15.6	213.2
7	24.5	18.6	144.4
8	29.8	22.7	344.6
9	24.6	18.1	300.2
10	20.4	9.7	77.9
11	14.5	2.8	28.2
12	12.0	-1.6	5.0

薬剤散布により病害はほぼ抑えているが、散布時期が遅れると「わずか1日の差で病気が発生する。たとえ雨が降っていても散布すれば効果がある」と安藤グリーンキーパーは話している。

薬剤散布は1,000lタンク車6台をフル稼動して行う。使用薬剤及び散布量はグリーンとほぼ同じである。ただ、グリーンはピュアサンドのためピシウムライトが少ないので、対ピシウム薬剤の量を抑え目にしている。

4 施肥管理

～洋芝は肥料食い

施肥は液肥を殺菌剤に混ぜて散布している。肥料はコウライ芝より多く要する。昭和63年の施肥量は窒素30、リン酸50、カリ37(g/m²)だった。同じ年のコウライ芝(パブリックコースのフェアウェイ)の施肥量が窒素25、リン酸25、カリ25(g/m²)であるから、やはり洋芝は肥料を多く食う。今年の施肥量は窒素32、リン酸29、カリ30(g/m²)を予定している。殺菌剤と肥料の施用量はコウライ芝より多くなるのはやむを得ない。昭和63年の実績では、殺菌剤はコウライ芝の約3倍、肥料は約2倍使った。

5 雜草防除と刈込み

～大型機械は芝を痛める

雑草防除はスズメノカタビラ対策を中心である。春と秋の年2回、除草剤(ロンパー)を散布している。芝への薬害は目だって出なかったが、芝の生長を若干抑制することはあると思われる。除草剤はエアレーションと目土作業を終えてから散布するのが理想だが、今年は4月に除草剤を散布してから、その後にエアレーションとなった。フェアウェイにティフトンが混入して困っているコースは多いが、当ゴルフクラブではこれと似て、フェアウェイの洋芝が野芝のラフに部分的に入ることがある。冬期のラフの枯れ色に緑が点在するのは見栄えが悪いので、ラウンドアップでスポット処理している。刈込みは3連ティモアを使っている。理由は大型のギャングモアだと重量があり過ぎて芝を痛めるからである。また、病害の原因ともなるサッチをためないためにも、集草バケツ

トを付けて刈れるティモアが適しているからである。3連モアでは、たとえ5台出しても広いフェアウェイすべてを刈るには、かなりの時間がかかる。お客様のプレー中は刈れないで、当然作業時間も制約される。刈込みはアウトコースとインコースを1日おきに行なっている。5台のティモアで午前7時から10時までに4ホール、午後3時から5時までに3ホール刈るのが標準作業である。

冬期は芝が伸びないので、掃除刈りのつもりで月に1回くらいモアを走らせる程度である。刈り高はオールシーズン17~18mmとしている。

6 エアレーションと目土入れ作業

エアレーション作業はコアコレクター付きのトリパックIを4台使って行なっている。大型機械を使わないので、作業時間は一般のコースの数倍はかかる。4台のグリーンセアをフル稼動しても1日1ホールの作業がやっとである。全14ホールのエアレーションを完了するには約2週間かかる。トリパックIによるエアレーションは春秋各1回行なっている。エアレーションをこまめにする理由は、排水を常時よくしておきたいからである。

フェアウェイの暗きょ排水工事は、ターフが出来上がってから昭和62年と63年の冬に約70か所行なっているが、まだ排水の効かない個所もあるので、追加の暗きょ工事とこのエアレーションを重点作業にしている。

目土はエアレーション時を含め、春秋各2回入れている。造成時に山土と砂を客土しているが、必ずしも満足できる土でなかったこともあり、エアレーション後は床土よりいい砂を入れている。昨年は4月末に第1回目の目土を行い、5月末のエアレーション後に第2回目の目土を入れた。秋にも同様に2回ほど目土を入れている。

開場してまだ1年だが、これまでのところフェアウェイの管理はうまくいっている。隣接のパブリックコースのフェアウェイに見えるコウライ芝と比べると、ターフが密で緑の色が美しい(5月末訪問)。

コウライ芝やラフの野芝が色あせる晩秋から早春にかけては、その差がもっと歴然とする。洋芝のフェアウェイを管理するには労力、費用とも普



コース遠景と点在する岩山

(グリーン、フェアウェイの緑とラフその他のかっこいいコントラストが美しい。写真では黒いところが緑色部分。)

通のコース(野芝、コウライ芝で造成)よりも多くかかり、技術面での難しさも増すであろう。

しかし、「ピュアサンドグリーンと洋芝のフェアウェイのコースは関東の平地では初めてのことなので、いろいろ勉強できてありがたい。コース管理の部下には自信と勇気と誇りをもって管理してくれと話している」と安藤グリーンキーパーは語っている。

おわりに

当ロックヒルゴルフクラブと筆者の出会いは、昭和61年の春からである。初代の砂山グリーンキーパー(現在、ゴルフコース・メンテナンス・コンサルタントを開業)が洋芝品種の選定のため当社の千葉研究農場へ来場されて、担当者間で品種の検討協議をした時に始まる。その後、何回かの検討会を重ねて、最終的に当社で新発売中のケンタッキーブルーグラス「スノーKB」とトールフェスク「スノーTF」を主体に採用していただいたのである。

現在、関東地域でロックヒルゴルフクラブをモデルとした洋芝コースの造成についての相談、問い合わせが数多くある。ここ当分は、この傾向が続くものと思われる。

「過酷な条件下でフェアウェイに寒地型の洋芝を使うのは、人は無謀と言った」……だが、夢ではなくロックヒルゴルフクラブが立派に実現したのである。当ゴルフクラブのますますの発展を祈念したい。